

International symposium for scaling up and out  
of climate-smart technologies and practices for sustainable agriculture

# 国際シンポジウム 気候変動と農業ビジネス

-技術を農業者に届けるために企業と研究者ができること-

令和元年 11月5日(火)

13:30-17:00 (開場12:00)

会場：日本学術会議 講堂 (裏面地図参照)

定員：150名(要申込) 参加費：無料

日英同時  
通訳有

## 基調講演

### ‘Scale up and out the technologies for farmers and the earth’ (仮)

ダヌーシュ ディネシュ氏

国際農業研究協議グループ (CGIAR)

気候変動・農業・食料安全保障研究プログラム

国際政策マネージャー

気候変動対応技術に関する世界の潮流について、様々な事例を用いて分かりやすく解説します。



## パネルディスカッション

生命を支える「食」と「栄養」と安心して暮らせる「環境」を未来のこどもたちに繋げるために、研究とビジネス、そして他に何が必要なのか、農業者を交えて議論します。

ファシリテーター：マッキンゼー&カンパニー パートナー 山田 唯人氏

パネリスト：

セブンフーズ 前田 佳良子 氏

O2(オーツー)ファーム 大津 耕太 氏

国際農業研究協議グループ ダヌーシュ ディネシュ 氏

パタゴニア日本支社 佐藤 潤一 氏

その他、研究関係者、農林水産省



農林水産省

## 気候変動は待ったなし -科学者からの警告

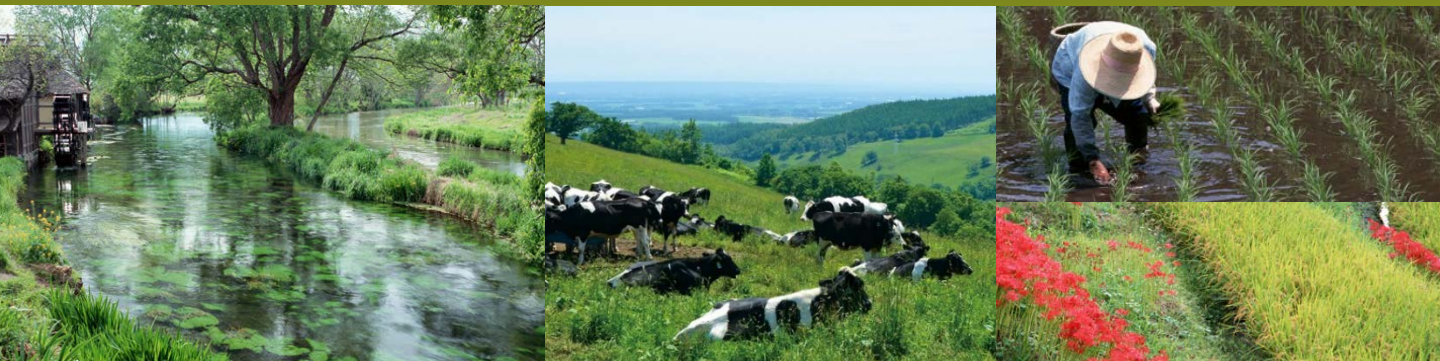
農業を含む産業活動によって、私たちが住む地球の平均気温は、産業革命前と比較して、すでに約1度上昇しました。気候変動は、熱波、干ばつ、豪雨といった極端現象の頻度とその被害の大きさを増やし、私たちの食料安全保障と生態系に悪い影響を及ぼしています(※)。

## 研究+ビジネス+αが必要

気候変動が進み、すでにこれまでの農業のやり方のみでは対応しきれなくなっています。新しい農業のために開発された「気候変動に適応した農業技術」や「温室効果ガスの排出が少ない農業」を世の中に広めて行くためには、一体何が必要なのでしょうか。

手遅れにならないうちに、開発された技術や知識を農業者が実践できるように。農業者を中心とした新しい研究アプローチ、そしてビジネスが求められています。世界の気候変動と食料の課題を解決する農業者の貴重な役割を私たちみんなが理解することから始めましょう。

※気候変動に関する政府間パネル(IPCC)土地関係特別報告書(2019年8月)



## プログラム

- 13:30 開会
- 13:40 基調講演
- 14:10 地域の実践(米国における土壌保全の事例)
- 15:00 ビジネス主導の事例
- 15:40 パネルディスカッション
- 17:00 閉会

## 参加申込方法

農林水産省のオンライン登録サイトよりお申し込みいただけます。「環境政策 農水省」で検索の上、環境政策室トップページから入っていたるか、右のQRコードを読み込んでください。



## 会場地図

日本学術会議 講堂

東京メトロ千代田線 乃木坂駅  
五番出口 徒歩3分

